

平成20年度 大和市障害者自立支援協議会第2回定例会 議事録

日 時：平成20年8月25日（月） 17：00～19：00

場 所：大和市障害者自立支援センター

出席者：定例会委員（敬称略、順不同）

西原毅（県央療育センター）、佐野文彦（あゆみの家）、
山岸安志（大和障害者地域生活支援ネットワーク）、
鳥原信一（大和市身体障害者福祉協会（視覚））、
大沢茂子（大和市身体障害者福祉協会（内部））※、
田辺暎夫（大和市身体障害者福祉協会（聴覚））※、（手話通訳2名）
小沢芳子（大和市手をつなぐ育成会）、
田村桂子（（特非）大和さくら会（精神障がい者家族会））、
木村訓子（神奈川県立瀬谷養護学校 地域支援担当）、
阿南由美（大和市教育委員会総務部指導室）、
澤田真理子（大和保健福祉事務所保健予防課）、星野宗吾（自立支援センター）、
目黒裕（松風園）、関水貴浩（福田の里）、
菊地原広憲（大和市保健福祉部障害福祉課）

注）※オブザーバー出席者

事務局

佐藤倫孝、三瓶悦子（自立支援センター）、岩淵陽子、五十嵐衛（サポートセンター・花音）、山田兼右（松風園）、福島裕美子（福田の里）、
熱田辰雄、高橋隆行、笹岡整（大和市保健福祉部障害福祉課）

通訳者：田辺李子、春木幸子

欠席者：成澤一之（ワークステーション・菜の花）、村元良悦（社会福祉協議会 生活支援課）、村尾朗（サポートセンター花音）、高橋正敏（大和市身体障害者福祉協会（肢体不自由））※

・ 議題

1. 課題提起シートについて報告及び内容検討

- ・ 自立支援協議会運営について
- ・ 相談支援事業について
- ・ 専門部会で検討されていない福祉ニーズについて
- ・ (委員の方々からの提案により) 提出された課題提起シートをまとめた一覧表をもとに会議を進行します。シート提出者の方々には必要に応じて内容についての補足・説明を願います。(事務局)
- ・ 自立支援協議会に6障害(知的・精神・身体(肢体・視覚・聴覚・内部)の当事者を

加えるべきだ。障害者からの現状報告を聞いてより良い方向にもって行く事が必要ではないか。今回オブザーバーとして来られた方々が委員会メンバーとして参加できるような状況がほしい。(委員)

- ・今回はオブザーバー的立場でとの要請があり参加した。内部障害で心臓にペースメーカーをつけているが、現在あまり問題なく過ごせている。内部障害でも透析や人工肛門などの対象者でもっと大事な事を発言できる方もいると思うが、(自分が)内部障害であることを隠したい・知られたくない方も多いのが現状ではないかと思われる。(委員)
- ・自立支援という言葉・内容がわかりにくい、聴覚障害者の立場として、この会で発言されたことは聴覚障害者協会にきちんと報告したい。(委員)
- ・自立支援協議会運営の中での、定例会の情報公開についてご意見を。(事務局)
- ・自立支援協議会や相談支援事業に関しても障害者・市民に周知するための広報活動が少ないのではないか。情報を前もって公開してほしい。(委員)
- ・現在相談事業のホームページを準備中。議事録公開の準備もすすめている。自立支援協議会の本来の目的・理念の再確認の必要性についてのご意見に関して。(事務局)
- ・相談支援からあがってくる課題と其々の団体がかかえている課題が全て一致するとはかぎらない。全てを定例会で議題とすることは難しいと思う。自立支援協議会の役割は相談支援からあがってくる課題について其々が情報を共有化し解決していくことである。(委員)
- ・専門部会について、身体部会がないことを疑問に思っていたが、できるだけ多くの団体が参加し問題や共通の課題を提示しあい、大和市の中で積極的に施策として取り上げるべきものは何かなど、優先順位をつけ検討していかなければならないと感じる。(委員)
- ・自立支援協議会の本来の目的、情報の共有・集約・整理・分析、及び地域ネットワーク構築という機能との係りを再確認したい。次に既存の部会に参加していない関係者の部会設置の必要性について。(事務局)
- ・現在部会を担当していない福田の里は、今年度中に新たな部会設置を考えている。相談支援事業から上がってくる課題を受け入れ部会で検討したい。(事務局)
- ・定例会の活発化、定例会・事務局会議の位置づけの再検討について。(事務局)
- ・定例会でもっと活発な議論が行なわれなければならない。定例会が自立支援協議会の羅針盤であり、事務局は定例会の議論をもとに円滑に運営を行なう機関であるべきではないかを感じる。(委員)
- ・事務局主導でそれを定例会が承認するだけになってしまうと、定例会が活発化しないとの意見を参考に、今回の会議をすすめたい。相談支援事業の強化については、具体的に相談支援事業が何をどのように支援

するのかわかりにくいとの意見あり。(事務局)

- ・相談事業が始まり約1年であるが、相談員の立場としては、まだ試行錯誤の状態である。大和市の相談支援事業の方向性も確立していないため、定例会の場などで相談事業に何を求めるかなど提示されると、相談員も活動が行ないやすく、評価も受けやすいと思う。(事務局)
- ・障害児の母親の就労支援について、相談支援で対応してほしい。(委員)
- ・相談事業の支援対象がどの範囲までなのか、具体的に何をどのように支援していくのか、検討が必要である。(事務局)
- ・個人的には課題を出さなかった。協議会の方向・課題をなぜ今回の定例会で検討するのか疑問を感じた。前回定例会でも方向性などについての議論やそれぞれの意見・課題が整理されていない。ネットワークや社会資源としての福祉サービス作りを検討する場と考えていたので、限界を感じた。(委員)
- ・相談員による個別支援会議・事務局会議・専門部会・定例会の4つの会議体を総体として自立支援協議会を位置づけているが、調整役の事務局会議が主導的過ぎるのではとの意見が出ている。(事務局)
- ・相談支援事業は各相談事業所に対応するのではなく、大和の相談支援事業として機能できないか。そうすることで様々な問題もある程度解消されると思う。(委員)
- ・相談員が上げている課題をこの定例会で委員の方々に理解いただきたい。(事務局)
- ・理解でなく解決しないと意味がない。(委員)
- ・定例会を中心とするなら、年4回では決定など行なうのは無理だと思う。(委員)
- ・全てのことを行なうのは無理である。保健所の場合、各関係機関が集まり課題について話し合い、優先順位を決めて対応してきている。障害別に分けたほうが問題が見えやすいと思う。(委員)
- ・定例会は決定する場なのか？機能的にはネットワークということで情報を共有しあい、現場に持ち帰り必要の中で地域の課題を検討する場であり、市に提言する場であるとは思っていなかった。(委員)
- ・結果的にそうなることはあると思うが、実際の定例会はそうでないと思う。今回、様々な分野の方々が一堂に集まり情報を共有しつつある。精神分野に関してもネットワークも出来つつあり、さらにこの中から優先課題を絞り問題解決・検討を行ないたい。(委員)
- ・定例会は決定機関であるとの認識統一してほしい。(委員)
- ・自立支援法の本来の目的・理念をもとに、決定すべきものは決定を行なう。(事務局)
- ・事業所はそれぞれの専門性がある。現在はすべての相談を幅広くおこなっては

いるが、様々な問題すべてを定例会で解決するのは無理である。

今後研修などの機会を増やして、専門性を持った相談員を育成する必要がある。
職員のメンタルヘルスについても検討しなければならない。(委員)

- ・様々な相談が増える中、解決できない問題や相談者が地域の中で豊かに過ごすにはどうしたら良いかなどを定例会で相談できるような方向性を検討したい。相談支援で受けたことを定例会までもってくるシステム・流れができていない。地域をどう良くして行くか？安心して相談支援に取り組める体制作りが必要である。相談員の心身を守るシステムも検討してほしい。(委員)
 - ・将来的には大和市の障害者・その家族が地域で安心して生活できる町にしたい。市の行政だけでは出来ない部分もある。身近でどこにも相談できる場所があれば良いとの思いがある。(事務局)
 - ・各部会活動でも相談員それぞれが力をつけてきている。相談員育成システムを定例会でどう支援していくか、今後部会のあり方や相談員の育成が上手くかみ合うと良いと思う。(事務局)
- その他課題提起された方で意見・発言は。
- ・教育的な支援の実現ということでは、臨床心理士の配置が望まれる。(委員)
 - ・身体障害の部会を設けて、筋萎縮性側索硬化症(ALS)及び高次脳機能障害などについて共有・検討をおこなってほしい。(委員)
 - ・精神障害についての正しい理解をしてもらうための働きかけについて部会で大きな問題として話し合ってもらいたい。(委員)
 - ・精神障害者の居住サポート、公的保証人のあり方、身体・知的障害の児童緊急一時預かり、地域支援の課題について。(事務局)
 - ・緊急事態発生時利用できるシステムを確立してほしい。(委員)
 - ・精神障害者の地域サービス事業所について。作業所利用を希望したが、当事者や家族の意向が支援課止まりとなってしまうこともあり、行く所がないのが現実。(委員)

2. 新たな専門部会設置について

- ・今回の課題提起シートと委員会の方々からの意見をもとに、新たな部会(仮称)「生活支援部会」についての検討を行い、次回定例会で承認いただきたい。シートに載せていない事・意見などあれば聞きたい。(事務局)
- ・福田の里が、新しい部会について定例会での決定を受けて行いたいとの意思を表明している。事務局としては福田の里と相談して新たな相談専門部、たとえば生活支援部会など設置の方向である。(事務局)
- ・生活支援と言うと相当広い領域に該当するが、そのイメージはどのようなものか？(委員)

- ・既存の部会に参加していない事業所・奉仕団体を中心に新たな部会設置を考えている。居宅介護や地域生活支援事業、地域作業所・入所施設などの関係者を含めた検討ができるような支援にしたい。(事務局)
- ・決定は次回定例会で良いと思う。今回も身体障害の部会設置をとの話が出ている。事務局で検討し次回定例会で発表してほしい。生活支援部会と言うのは幅広すぎると思う。(委員)
- ・事務局でも新たな部会設置には了承を得ている。(事務局)
- ・新たな部会設置には賛成だが、現在部会に関わっていない方々が参加できるようなもっと適切な名称はないか。(委員)
- ・生活支援部会と言えば精神も含まれるが…。(委員)
- ・既存の部会構成員でないところを中心にしたい。精神の方をこの部会にとはあまり考えていない。(委員)
- ・生活支援部会では幅が広すぎる。当事者の立場からも身体の専門部会にしてほしい。(委員)
- ・課題提起シートや委員からの意見で身体部会設置ニーズが集約できたと思う。(委員)
- ・集約できたのであれば、身体障害の部会設置で準備していくことができる。身体障害部会をとという意見が多ければ身体障害の部会を設置する。(事務局)
- ・身体障害部会であるなら、地域作業所も構成員であるのか？(委員)
- ・事業所が中心になって調整を行い、当事者団体から事業所など其々の機関が力をあわせることで、大和市の福祉を良くしていくことが目的である。構成員については幅広く網羅すべきである。(委員)
- ・身体障害の部会設置の方向で、次回定例会では部会のテーマ及び構成員について福田の里より具体的な提案がなされる予定。(事務局)

3. 相談支援事業活動報告 (事務局より)

・各部会の活動報告

児童部会：(事務局より報告)

- 前回の定例会を検討し、構成員として8月の部会より三ツ境養護学校地域支援部 山本氏の参加あり。
学齢期における支援・相談体制のあり方について、一覧表を作りながら、関係機関で役割・機能を情報提供しあい、相談体制の把握や教育・福祉分野での情報交換、地域の現状や課題の把握を行っている。
次回部会では市障害福祉課療育相談や児童相談所についての検討・情報交換、特別支援学校における地域支援について検討を行う予定。

就労部会：(事務局より報告)

- 今年度の検討課題のひとつ、共通アセスメントシートの運用についてはワーキンググループを作り就労活動を始め、就労者1名を出すことができた。精神部会とも調整を行い、3障害を含めて就労支援について検討できる場にした。施設利用者・職員向けの研修会の開催などを加え活動していく。

精神部会：(事務局より報告)

- 昨年同様に精神障害者の支援システムの確立に取り組み、事例を報告しつつ勉強会・意見交換などを行っている。日中活動の場拡充・就労支援については策定委員会への意見具申・現状把握に取り掛かっている。
部会主催2回コースでピアカウンセリング中心の研修会実施。
フロー図を活用しつつ「日中活動の場拡充」「就労支援」など課題の整理を行う。就労部会のアセスメントシート作成ワーキングチームにも加わる。

・相談支援事業利用実績報告(事務局より報告)

- 延べ件数は昨年一年間の総件数の約7割に達する3,634件、実件数は昨年の8割に達する641件となっている。
支援方法は電話がかなりの割合をしめ、内容については生活全般・サービス利用・就労に関する相談がほぼ7割りを占めている。(4~7月現在)
前回指摘のあった障害種別データについては、当初より6障害他のデータ一別となっている。

4. その他

- 大和保健福祉事務所保健予防課より
やまと自殺対策シンポジウムについて
- 障害福祉課より
災害時要援護者支援制度について

- 次回定例会 平成20年11月25日(火) 17:00~19:00